九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[15] エネルギー史研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/13823

出版情報：エネルギー史研究 ： 石炭を中心として. 15, 1991-12-25. 九州大学附属図書館付設記録資料館産業経済資料部門
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

挨拶

石炭研究資料センター長　矢田俊文

九州大学石炭研究資料センターが産業労働研究所に代わって正式に発足したのが、昭和五四年四月のことである。それからはや十二年をへようとしている。

わが国の石炭産業は、昭和三十年代から四十年代にかけての激しい「エネルギー革命」の嵐のなかで、大幅な撤退を余儀なくされ、筑豊・唐津・佐世保・山口のわが国西南部の主力炭田の石炭生産はほとんど壊滅してしまった。四八年の石油危機によって、「石炭の見直し」ムードが高まり、五十年の第六次石炭鉱業審議会答申では国内炭生産の現状維持をうちだした。二十年近く吹き荒れた閉山の嵐は、一時的にではあるがようやくおさまった。石炭研究資料センターが発足したのは、まさにこうした状況のなかであった。閉山の嵐のなかで散逸しつつある石炭に関する資料をできるだけ沢山収集・保存することを目的にした当センターの設立は、まさに時機をえたものであった。

秀村選三初代センター長のもとで、こうした資料収集の作業を徹底的に行い、わが国では類をみない膨大な石炭資料の山を築きあげるまでになった。こうした「石炭史の資料を細密なまでにつきつめる」なかで、「一体石炭とは日本の近現代にとって何であったのかという深い疑問」を「歴史的に究明してみよう」（『エネルギー史研究ノート』一号、昭和四八年五月）という研究も一歩一歩着実に進行している。

『エネルギー史研究』は、単に石炭だけでなく、石油、電力などより広い分野の歴史を研究する雑誌として昭和四八年五月に一号を発刊して以来、今年で十八年を迎える。その間十号（昭和五四年三月）を記念して従来の『エネルギー史研究ノート』から『エネルギー史研究』にタイトルを変更し、十一号（昭和五六年十月）から編集を「エネルギー史研究会」から九州大学石炭研究資料センターに変え現在に至っている。以後一四号（昭和六一年一二月）まで発行したものの、その後諸般の事情からとだえたものを、一昨年の秋、石炭研究資料センター設立十周年の一連の記念事業の一環として復刊することになり、ここに十五号を発行することになった。

十周年事業は、一、展覧会・展示会の開催　①炭鉱絵画・写真展「石炭からのメッセージ」（平成元年十一月十日 ― 十四日、福岡市）、②炭鉱地図・炭鉱札展（平成元年十二月七日 ― 二年一月二八日、飯塚市）、③炭鉱写真・ビデオ展（平成元年十二月六日 ― 十日、佐世保市）、二、論文集の刊行 ― ①『戦前期筑豊炭鉱業の経営と労働』啓文社（平成二年）、②『エネルギー史研究』十周年記念号（十五号）、三、記念パーティー（平成元年十一月十三日）の3つの内容で行われ、『エネルギー史研究』は十周年事業の最後の仕上げともなるものである。

発行者である西日本文化協会、本誌に投稿して頂いた皆様はじめ日頃石炭研究資料センターに御協力頂いている皆様にここで改めて御礼致します。